

庚申塔調査第3回記録 2019年 3月14日

1. 覚園寺大門跡 3基

A 既存資料データ

(1)右 角柱

正面 庚申塔

左面 萬延元年申 稔十二月 願主 大村山蔵

台石 造立者名 読めない

$24 \times 57 + \text{台 } 37 \times 17$ 28×68

(2)中 駒型

正面 青面金剛王 月日 三猿(みきい)

右面 文政七歳 戊甲申 季穉

台石 造立者名 読めない

$26 \times (45 + \text{猿 } 19) + \text{台 } 40 \times 17$ 18×65

(3)左 舟型

正面 阿弥陀如来像 来迎相 壇上 三猿(みきい)

右脇 延宝五天 十二月十七日

左脇 奉造立庚申供養

台正面 施主 七人・敬白 講中

$30 \times (40 + \text{猿 } 18 + \text{壇 } 10 + \text{台 } 15)$ 30×65

B 調査記録

(1) 右角柱について、左面 年「木村」は年、「堀」は申としているが現認すると「堀」が正しいと読める。また、十二月の後に「堀」は「願主 大村山蔵」としているが、現認すると、「施主 大村仙蔵」と読める。

(2) 中駒型 右面の文字について「木村」は「戊甲」、「堀」は「甲申」と読んでおり、いずれが正しいか現認すると、そのいずれでもない「戊申」と読める。

(3) 左舟型 記載どおり

2. 稲葉越(調査付記)

覚園寺大門跡から紅葉ヶ谷に向かう途中で、稲葉越の道である稲葉橋を渡り理智光寺跡に向かう道の右手にある大きな古民家へ。ここは元鎌倉で校長先生をしていたという小牧家で、かつては護良親王の墓守をしていたという家で、広い邸内には関東大震災でも倒れなかったという江戸時代の蔵と昭和初期に建てられた古民家と広い庭園があり、今は「古今(ここん)」というイタリアンと民泊を営んでいる。蔵の中には数多くの古文書があり、護良親王の墓守

に関しても残されていた。現在は鎌倉中央図書館に寄贈されている。

3.紅葉ヶ谷(旧熊野神社参道入口) 1基

唐破風付笠塔婆

A 既存データ

正面 阿弥陀如来像・合掌 蓮台上 きかざる
右面 奉造立庚供養 敬白 みざる? いわざる
左面 天和三癸年 十一月三一廿三日 いわざる みざる
台石 二階堂村 村中
笠 $49 \times 22 + 33 \times (58 \text{ 如来} + \text{猿 } 21 + 15 \text{ 村中})$ 37×125

B 調査記録

「木村」と「堀」とで「みざる」と「いわざる」の解釈が逆となっているが、現認すると、左面の猿は「いわざる」が正しい。右面の猿は半分なくなっていて正確には不明だが、三猿とすれば「みざる」が正解であろう。左面の日付は、「木村」が、「天和三癸年 十一月廿三日」と読み、「堀」は、「天和三癸年 十一月一日」と読んでいるが、現認するといずれとも異なる「天和三年亥丙十月廿一日」と読める。

4. 瑞泉寺 1基

板状駒型

A 既存データ

正面 青面金剛像・六手・月日・邪鬼 きかざる
左上手 輪宝 中手 頭髮 下手 弓
右上手 矢 中手 劔 下手 索繩
右脇 童子 いわざる 鶏
左脇 童子 みざる 鶏
台石 庚申之供養 享保八年 三月八日 施主 埋まって見えず
 $29 \times (48 + \text{猿 } 15)$ 30×64

B 調査記録

この塔は市の指定有形民俗文化財に昭和40年3月30日に指定されている。有形民俗文化財を示す標識が新しいので良く見ると平成31年3月とあったので、新しく作り直され設置された直後であった。記載内容は「堀」より「木村」のほうが詳しいが、「木村」の記載どおりであった。